

平成9年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録から)

財団法人 尾瀬保護財団

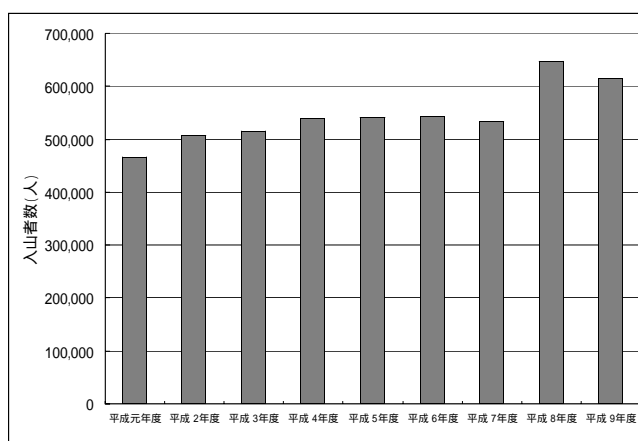
目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	1
(1)	年別発生状況	1
(2)	地域別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	2
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	3
(6)	年齢別・男女別発生状況	3
(7)	傷病者の居住地別発生状況	4
(8)	グループ人数別発生状況	4
(9)	傷病事故の通報状況	4
3	救助活動	4
(1)	救助隊出動状況	4
(2)	ヘリコプター活用状況	5

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月中旬までであるが、同期間で環境省が各登山口に計測するセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半を推移し、平成8年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬紹介により64万人台後半に上昇した。平成9年度は前年度比で約5%減少となったが、以前として過剰な利用状態が見受けられる状態であった。また、平成元年度から閉鎖されていた至仏山東面登山道が環境庁（当時）を中心とする協議会で利用再開が決定され、平成9年8月から再開された。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9



尾瀬の入山者数の推移 (環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

(1) 年別発生状況

平成9年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が出動した傷病事故は、33件発生した。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者 (人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
8年度		16			16	16
9年度		33	2		31	33

(2) 地域別発生状況

地域別では大江湿原・沼北岸での事故発生率が27.3%と最も高く、ついで鳩待峠～山ノ鼻が24.2%であった。

区分 地域別	発生件数 (件)	発生 比率	遭 難 者 (人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
鳩待峠～山ノ鼻	8	24.2			8	8
尾瀬ヶ原	1	3.0			1	1
三条ノ滝	0	0				
大江湿原・沼北岸 (VC周辺を含む)	9	27.3			9	9
尾瀬沼南岸	1	3.0			1	1
沼山峠～尾瀬沼	5	15.2	2		3	5
大清水～尾瀬沼	0	0				
尾瀬沼その他の地域	3	9.1			3	3
燧裏林道	0	0				
アヤマ平	1	3.0			1	1
至仏山	2	6.1			2	2
燧ヶ岳	3	9.1			3	3
合 計	33	100.0	2		31	33

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道上での転倒事故が最も多く、その他の歩道区間と合わせるとおよそ6割が転倒によるものであった。また、死亡した2名はいずれも心臓発作が原因であった。

区分 原因別	発生件数 (件)	遭 難 者 (人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
木道上の転倒	15			5	10	15
歩道上の転倒	5			2	3	5
病気	6	2			4	6
疲労・低体温	5			3	2	5
落石						
道に迷い	1				1	1
雪崩・雪渓崩落						
落雷						
徒渉失敗						
その他	1				1	1
不明						
合 計	33	2		10	21	33

(4) シーズン別発生状況

シーズン別では夏山での発生が16件(48.5%)と最も高かった。

区分 シーズン別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
春山(4・5・6月)	9	2		3	4	9
夏山(7・8月)	16			6	10	16
秋山(9・10・11月)	8			1	7	8
合計	33	2		10	21	33

(5) 月別発生状況

月別発生では6月、7月、8月が多く、登山者が多い夏山に傷病事故が集中する傾向が見られた。

区分 原因別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
4月	0					
5月	0					
6月	9	2		3	4	9
7月	8			3	5	8
8月	8			3	5	8
9月	3				3	3
10月	5			1	4	5
11月	0					
合計	33	2		10	21	33

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢・性別についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分 年代別	性別不明(人)					比率 (%)
	死亡	行方不明	負傷	救出	計	
10代						
20代						
30代						
40代						
50代						
60代						
70代以上						
年齢不明	2	0	10	21	33	100.0
合計	2	0	10	21	33	100.0

(7) 傷病者の居住地別発生状況

居住地についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分 都道府県別	死亡	行方不明	負傷	救出	計
不明	2	0	10	21	33
合計	2	0	10	21	33

(8) グループ人数別発生状況

傷病者からの聞き取り内容として記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

(9) 傷病事故の通報状況

通報状況は、山小屋や救助隊からの出動要請が25件(75.6%)と最も多く、それ以外では本人がビジターセンターで直接依頼する通報が8件であった。

区分 通報別	通報者(件)						比率(%)
	本人	家族	同行者	他人	山小屋 救助隊	計	
口頭	8				25	33	100.0
携帯携帯						0	0
電話						0	0
アマチュア無線						0	0
その他無線						0	0
不明						0	0
合計	8	0	0	0	25	33	100.0
比率	24.2	0	0	0	75.8	100.0	

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

ビジターセンター職員・山小屋従業員等で構成される救助隊の出動が最も多く20件(47.6%)であった。

区分 年度	発生件数 (件)	消防	救助隊	ビジター センター	一般	合計
平成8年度	16	2	4	12		18
平成9年度	33	12	20	10		42

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故 33 件のうち 5 件 (15.2%) にヘリコプターを依頼し、5 人を搬送した。

年度 \ 区分	依頼件数 (件)	負傷者救助 (人)	病人等救助 (人)	行方不明 (人)	遺体収容 (体)
平成 8 年度	2	1	1		
平成 9 年度	5	3	1	1	